

トスカについて

作曲 プッチーニ

原作 ヴィクトリアン・サルドゥ

台本 ルイージ・イッリカとジュゼッペ・ジャコーザ

初演 1900年1月14日 ローマ

演奏時間 1時間50分（第1幕45分、第2幕40分、第3幕25分）

プッチーニの10曲のオペラ作品の中で、5番目の作品。ラ・ボエームとバタフライの間の作品である。19世紀の終わりイタリアオペラは新傾向を迎えていた。それは従来の古い王や神々などに素材をとるのではなく、日常生活を直接的に表現する作法でそれをヴェリズモと呼ぶ。トスカは日常生活を同時代で描いた作品ではないが、その激しい感情表出や直接的な表現はヴェリズモの影響を大きく受けている。

『トスカ』と前作『ラ・ボエーム』と作品の傾向は驚くほど異なったにも関わらず、上演は完璧な成功で、批評家の評価は芳しくなかったが、聴衆は熱狂的にこれを受け入れた。

舞台：ローマ市内

とき：1800年6月。ナポレオン率いるフランス軍が欧州を席卷していたころ。

#### 登場人物

フローリア・トスカ：有名な歌手(S)

マリオ・カヴァラドッシ：画家でトスカの恋人(T)

スカルピア男爵：ローマ市の警視総監(Br)

チェーザレ・アンジェロッティ：前ローマ共和国統領(B)

スポレッタ：スカルピアの副官(T)

堂守：聖アンドレア・デラ・ヴァレ教会の番人(Br)

その他羊飼ひ(S)、看守、聖歌隊・市民など（合唱）

#### あらすじ

画家カヴァラドッシと、その恋人で有名歌手トスカの物語。画家は脱獄した政治犯の逃亡を助けたために死刑宣告される。トスカは、彼を救おうと警視総監スカルピアを殺すが、スカルピアの計略でカヴァラドッシは処刑され、トスカも彼の後を追って自殺する。

## 第1幕

逃亡した政治犯アンジェロッティ（アッタヴァンティ侯爵夫人の兄）が隠れ家を求め、聖アンドレア・デラ・ヴァレ教会にやってくる。一族の礼拝堂に隠れるとすぐに堂守とカヴァラドッシが登場する。カヴァラドッシは描きつつある肖像の青い目で金髪のモデル（アッタヴァンティ侯爵夫人を描いている）と、自分の恋人黒い目に茶色の髪のとスカとを比較してアリア「妙なる調和」を歌う。

カヴァラドッシは一人になるが、物音でアンジェロッティのいることに気づく。2人は再会、アンジェロッティは牢獄であるサンタンジェロ城から逃げ出してきたことを話す。そこへトスカが外から「マリオ！」と呼ぶので、カヴァラドッシは彼に飲み物を与えて隠れるように言う。

トスカはドアの外から話し声を聴き、嫉妬（しつと）心から彼が誰か他の女性との密会をしていたと疑う。そしてカヴァラドッシを別荘でのデートにさそうが、彼の描く女性の顔を見てその疑いはさらに深まる。しかし、マリオの説明を聞いてその場は納得し、肖像の眼の色を黒にすることと、夜に会う約束をしてその場を去る。

アンジェロッティが再び現れ、カヴァラドッシと脱出計画を話し合う。カヴァラドッシは自分の別荘の鍵を渡す。サンタンジェロ城で砲声が響き、アンジェロッティの逃亡が発覚したことを告げる。2人は急いで別荘へむかう。

堂守が大勢の少年合唱隊とともに戻ってくる。彼らはナポレオン軍がマレンゴの戦闘に敗れたという誤報を信じ、神に感謝してテ・デウムの準備をする。そこへ警視總監スカルピアが副官スポレッタを従えて登場する。伯爵夫人の扇と空になった籠を見つけ、逃亡者の共犯者への疑いを抱く。

彼は堂守の話からカヴァラドッシが共犯であると確信する。そこへ疑い深いトスカが戻ってくる。スカルピアはトスカにアッタヴァンティ夫人の扇を見せて不安な心を煽る（あおる）と、彼女は嫉妬心からその場を去る。スカルピアは部下に彼女のあとをつけるように命じる。教会ではテ・デウムが始まるが、スカルピアは祈りに参加しつつも目指す男（逃亡者）とトスカの二人とも手に入れるのだと歌う。

## 第2幕

スカルピアがファルネーゼ宮殿で夕食を取っている。外では戦勝祝賀会の歌声が聞こえる。彼は家来にトスカをリサイタル終了後に呼びに行かせる。彼は皮肉交じりにトスカを自らの権力で屈服させるのだと歌う。

スポレッタが拘留したカヴァラドッシとともに登場する。アンジェロッティはからくも逃れたのだった。スカルピアは画家を尋問するが彼は白状しない。そこでカヴァラドッシを別室で拷問にかける。そこにトスカが登場、スカルピアに恋人の苦痛のうめきを聞かされると、ついに堪えきれずにアンジェロッティの隠れ場所をしゃべってしまう。ナポレオンの勝利の知らせに喜ぶカヴァラドッシは死刑を言い渡され牢屋に連行される。彼の後を

追おうとするトスカを、スカルピアが呼びとめる。彼女は賄賂（わいろ）で助命を得ようとするがスカルピアは恋人を自由にする代償として彼女の身体を求める。トスカは絶望し神に助けを求めて祈る、アリア「歌に生き、愛に生き」。

スポレッタが戻ってきてアンジェロッティが自殺したことを告げ、カヴァラドッシの処遇をたずねる。トスカが観念したと見たスカルピアは、スポレッタに対しカヴァラドッシに『見せかけの処刑』を行うよう命令する。パルミエリ伯爵の時と同じだ、と説明するのを意味ありげに聞いた部下は退出する。トスカはイタリアを（自分とみせかけの処刑で放免となるはずのカヴァラドッシと一緒に）出国できるよう、スカルピアに通行証を求める。スカルピアが書類を書いている間、食卓のナイフに気づいたトスカはそれを隠し持つ。書き終えたスカルピアが「トスカ、とうとう我が物」と迫るところを、トスカは「これがトスカのキッスよ」といってナイフで胸を刺す。息絶えた彼の手から通行証を奪うと、トスカは信心深く遺体の左右に燭台をおき、十字を切ると遠くの太鼓の音をききつつ去る。

### 第3幕

冒頭、ホルンのファンファーレに続いて、朝を告げる鐘の音と羊飼いの牧歌が聞こえる。カヴァラドッシは夜明けに行われる処刑を牢屋で待っている。彼は自らの死と恋人との別れを想うと絶望して泣き崩れる、アリア「星はきらめき」。

トスカが現れ、驚くカヴァラドッシに通行証を見せ、これまでのいきさつを語る。空砲で見せかけの処刑が行われること、恋人の助命と引き換えに身体を要求したスカルピアを、彼女が刺し殺したことを聞き、カヴァラドッシは彼女の手をとって「おおやさしい手よ」とトスカの愛情と勇気をたたえる。時間が迫ったことを告げる彼女にカヴァラドッシは君ゆえに死にたくなかったと語りトスカと互いの愛情を歌う。

看守がカヴァラドッシに時が来たことを告げる。トスカに見送られて刑場に赴くカヴァラドッシに彼女は「見せかけの処刑だからうまく倒れてね」と言葉をかける。

並んだ兵士たちが一斉に発砲し、カヴァラドッシは倒れる。トスカは『彼の演技』がうまいと一人ほめる。兵士たちが去ったのを見てトスカはマリオに近づき声を掛けるが彼は動かない。

処刑は本物だったのだ。スカルピアは最初からカヴァラドッシの命を救うつもりなどなかった。トスカは死んで横たわるカヴァラドッシの傍らでスカルピアの計略を悟り、マリオの名を呼んで泣き叫ぶ。そこにスカルピアが殺されていることを知ったスポレッタが兵士と共に駆け寄り、彼女を殺人罪で逮捕しようとするが、彼女は逃れ、サンタンジェロ城の屋上から身を投げる。